

令和 4 年度市民協働事業提案制度について（案）

1. 令和 4 年度提案事業

■行政提案型市民協働事業・・・1 件

事業名	応募団体名	担当部署名
外国人を支えるやさしいまち	にほんごしえん	政策室

2. プレゼンテーション及び審査会

■実施状況

日時：令和 4 年 7 月 30 日（土） 午前 10 時～

会場：防災センター 4 階会議室

担当：狛江市市民参加と市民協働に関する審議会委員（4 人）

3. 審査方法・結果

■別紙審査表のとおり

審査に当たっては、下記のとおり設定する審査点（別紙審査表参照）による基準を基に、審議会において総合的に判断した。①・②とも基準を満たしていることから採択が望ましいと考える。

【審査点による基準：①・②両方を満たすこと】

①評価点合計 30 点の 1/2 となる 15 点×審査員数以上

②重点ポイントについては、「寄与する」等 4 点の部分基準とし、12 点（4 点×3 審査項目）×審査員数以上

【結果】

①評価点：91 点/120 点（基準点・60 点）

②重点ポイント：57 点/72 点（基準点・48 点）

4. 総括

今年度は行政提案型に 1 団体からの応募となった。提案事業については、公益性、実現性、発展性が高く評価された。事業実施に当たっては、市担当部署及びこまえくぼ 1234 と連携し進めていただくとともに、対象が子ども中心の事業であることから、特に新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に十分に配慮し事業を実施していただきたい。

また、継続的・安定的に事業実施ができるよう団体自体が事務局機能等の力を付け、市民協働がより推進されるような取組を期待したい。

市民協働提案事業 審査表

提案団体名	にほんごしえん
提案事業名	外国人を支えるやさしいまち

◆事業について

①★**公益性**：提案事業は、地域社会の発展又は地域課題の解決に寄与するものであるか。また、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであるか。

1. 大変寄与する(6点) 2. 寄与する(4点) 3. あまり寄与しない(2点) 4. 全く寄与しない(0点)	A	B	C	D	合計
<特記事項> ■地域課題の解決に取り組むもので、様々な立場や背景を持った市民に住みやすい街を提供するとともに、市民の潜在している能力を地域に還元する側面も持っており、評価に値する。 ■そもそも、地域課題から動き出した活動であり、行政と解決に向けて市民が協働して行っていく事業としても大変良く、継続して進めて欲しい事業である。行政と協働事業として実施していく場合、対象の幅を少し広げ、小中学校の親子だけではなく、子どもがいない方でも日本での生活に必要な方へ、柔軟な対応を行って欲しい。 ■多様性への受容が求められるこれからの時代において、外国人居住者とのより多くの市民の関わりが増える取組は、地域の安心安全性醸成のための有用な手段になると強く感じた。 ■日本語を使ったコミュニケーションに困っている市民に対して、生活しやすく支援することは、公益性が高い事業であると考えられる。しかしながら、市民に対する外国籍の人数(約1,000人程度)の中で日本語に難のある方々と限定されると、多数市民の利益増進に寄与しているとは考えにくい。	《点数》				22
	6	6	6	4	/24

②**具体性**：事業内容や実施方法に具体性があり、市と団体の役割分担が明確かつ適正か。

1. 大変適正である(3点) 2. 適正である(2点) 3. あまり適正でない(1点) 4. 全く適正でない(0点)	A	B	C	D	合計
<特記事項> ■実際に一年間の中で様々な活動を積み重ねており、具体性がある。しかし、実施方法が企画・調整機能全て「こまえくぼ」により動いており、団体としての企画立案から実施・管理運営までには至っていない。今後団体として実施方法を担うことを前提により具体化していくが必要になってくる。(現状では「こまえくぼ」が全て事務局機能を担っている。) ■事業内容の具体性は問題ないと思われる。実施していくステップとして、NPO法人化に向けての具体的な流れが構築されていないため、団体の継続に不安を感じる。3カ年計画を立て、しっかり法人化に向けて組織運営を安定させ、継続できる団体であることを行政が信じられるところまで団体として育てていただきたい。また、市に担ってもらいたい『日本語支援コーディネーター』が行う仕事と、NPO事務局が行う仕事の役割分担を明確にすることが必要。 ■役割分担を明確にしつつも、連携をどう取るかも重要なポイントだと感じた。 ■日常支援、会員定例会、勉強会・ワークショップについては、活動実績もあり、実施方法に対しても現実的な内容であると考えられる。一方、日本語支援コーディネーターといった、本事業の中核を担うと考えられる重要なポジションを行政に任せたいとする点は、実現性が乏しいと考えられる。まずは、活動団体自信で運営を行ない、活動の結果として市へ必要性を打診するのが、必要な流れだと考える。	《点数》				8
	2	3	2	1	/12

③**実現性**：事業計画は妥当であり、ウィズコロナ、アフターコロナに対応するなど事業に実現性があるか。

1. 大変実現性がある(3点) 2. 実現性がある(2点) 3. あまり実現性がない(1点) 4. 全く実現性がない(0点)	A	B	C	D	合計
<特記事項> ■コロナ対策に関しては、どの事業もSNS等の利用も含め、臨機応変に対応できる内容と思われる。 ■コロナに関しての対策などは、計画に特に記載がないが、一般的な流れに則って行うことで、大きな問題はないように思われる。 ■1年間の活動計画については実現性があり、Zoom、Webページを活用した取組も考えており、妥当と考えられる。しかしながら、中期計画に記載しているNPO法人化の検討については、実現可能性が理解し難い。そのためには、団体の運営および活動について、こまえくぼ1234から離れた形で、専属の担当者を設置することが好ましいと考える。	《点数》				10
	3	3	2	2	/12

④**効率性**：収支予算は妥当であり、事業に効率性があるか。

1. 大変効率性がある(3点) 2. 効率性がある(2点) 3. あまり効率性がない(1点) 4. 全く効率性がない(0点)	A	B	C	D	合計
<特記事項> ■現状では、イベント等の講師料等を中心に全額市負担としていて、各個人の活動は持ち出しとなっている。今後、様々な資金調達計画されているものの未だ実行されていない。当初は実践のための個人負担でよくても、活動を継続・安定させるためには活動するメンバーに関しても交通費等は出せるような安定的な資金計画が必要である。その上で有償の部分を考える必要がある。 ■正直な予算という印象で、妥当と思われる。 ■将来的には市の安全対策予算という観点からも検討に値すると感じている。 ■予算計画に記載の数値は、詳細に検討されており、実現性のある予算であると判断する。しかし、各支援者の交通費や場所代といったものが含まれていないため、少額の支出も含めるとより良い収支予算計画になると考える。	《点数》				9
	2	3	2	2	/12

評価点計(15点満点/個人・60点満点/合計) 13点 15点 12点 9点 49点

◆団体について

①★協働性：団体と市が協働することによって、さらなる効果が期待できる事業であるか。また、それぞれの強みを活かし、対等な立場で実施できる事業であるか。

1. 大変期待できる（6点） 2. 期待できる（4点） 3. あまり期待できない（2点） 4. 全く期待できない（0点）					A	B	C	D	合計		
<特記事項> ■事業のテーマそのものは市の課題であり、協働は欠かせない。市と団体、こまえくぼの事務局の役割を整理し、明確にしていくことが必要である。そのためには、団体のあり方をどのような形にするのか見直しをもって組み立てていく必要がある。 ■日本語が母国語ではない方への支援について、団体・公民館・役所・学校教育などの連携が、支援をスムーズに的確に行える仕組みとなるのは明らかである。さらに、市民団体だからできることとして、市民と市民の支え合いの仕組みの構築は、日本での生活に関する支援以上の効果が期待できる事業と思われる。 ■日常の日本語コミュニケーションへの支援という点で、市と協働することで狛江市での過ごしやすさが増してくると思われる。現状の団体の考えでは、「団体＝支援者」、「市＝運営」という認識が強いように感じた。されなる効果を生むためには、団体自らが運営にも携わることが必要であると考えられる。					《点数》						
					4	6	6	4	20		
									/24		

②実施能力：提案団体は、提案事業を実施する能力を持つか。

1. 大いに持つ（3点） 2. 持つ（2点） 3. あまり持たない（1点） 4. 全く持たない（0点）					A	B	C	D	合計		
<特記事項> ■提案団体そのものの事務機能、調整機能等を持っていない段階で「こまえくぼ」が中心になって運営している状況である。 ■団体としてまだ1年であり、こまえくぼの支えがあって稼働している印象がある。どのような具体的なスケジュールで、独立した団体となっていくのかを、計画を立て確実に実施し、団体として継続させるために、有給で働く事務局が必要かどうかの検証なども必要なのではないか。また、有償ボランティアと無償ボランティアの具体的な差についても明確にするなど、団体の継続に向けて必要な運営の会議をしっかりと行うことが重要と思われる。 ■体制づくりには複数年度掛かると思うので、それまでに「こまえくぼ」との関わり方を含めた活動計画作りが必要だと思う。 ■活動報告の実績から、実施する能力を持つと判断できる。しかし、計画や運営をこまえくぼに頼っている側面が多く、団体自ら実施することを強く求める。また、本団体の活動を必要と感じる方に周知させることも大切である。					《点数》						
					1	2	2	2	7		
									/12		

③★発展性：事業内容は、現状の団体の活動内容から発展性が見られるか。また、提案事業を実施することにより、団体の活動に発展が期待できるか。

1. 大変期待できる（6点） 2. 期待できる（4点） 3. あまり期待できない（2点） 4. 全く期待できない（0点）					A	B	C	D	合計		
<特記事項> ■発足から1年で多くの活動に取り組むことができたのは、「こまえくぼ」の事務局の機能がプラスに働いたことによるので、今後どのような形で団体として発展していくのか、団体としての独立性や方向付けを明確にしていくことを期待する。同時に、市の担当部署の役割と「こまえくぼ」の支援機能の方向性も明確にすることも必要である。 ■子育て中の保護者が、市民活動に参加する機会が増えることにも繋がり、様々な発展性は期待できる。ぜひ、休日の学校も利用できるようにし、現場の先生方とボランティアの方の繋がりや授業以外でのどのような困りごとが実際に起こっているのか？を先生方が知ることができると良いと期待する。 ■市は、他市区町村よりも外国人比率が低いため、喫緊の対策ではなく着実な取組が可能だと感じる。他市区町村でのノウハウを取り入れつつ、市の状況や課題に合わせた発展の仕方が可能だと思う。 ■事業内容の発展性は大きいと考えると考えられる。実施計画の資料にも記載があったが、不登校問題、異文化コミュニケーション、居場所づくり等といった、具体的な活動案が思い浮かぶ。そのためにも、団体自身で運営母体を設置し、今後の活動方針を自ら決められるようにしてほしいと思う。					《点数》						
					4	6	6	4	20		
									/24		

評価点計（15点満点/個人・75点満点/合計）

9点 14点 14点 10点 47点

評価点全合計（30点満点/個人）

22点 29点 26点 19点

うち重点ポイント（★）合計（18点満点/個人）

14点 18点 18点 12点

評価点

96点 /120点

※基準点 60点

うち重点ポイント

62点 /72点

※基準点：48点

【審査結果】 事業内容の一部見直しを条件に採択することが望ましい

本事業は、日本語の支援を必要としている児童・生徒・保護者等を対象に生活言語習得の支援を実施するという地域課題の解決に寄与する事業であり、公益性が高く、市との協働により事業効果がさらに上がると考えられる。また、潜在的に市民活動に関心のある方が市民活動に参加できる機会が増えることにも繋がり、様々な発展性が期待できる。

ただ、現状ではこまえくぼ主導型の事業運営であり、未だ独立した団体とは言い難い状況である。NPO法人化を視野に入れているのであれば、早い段階から法人化への明確な道筋を示すなど、団体としての基盤作りをしていく必要がある。

行政課題に対して多くの市民が関心を持ち、市民が市民を支える仕組みへと発展していくことは、まちづくりとしても理想的だと感じる。課題解決に向けて行政やこまえくぼと連携することで事業が継続されていくことを期待したい。

市民協働提案事業 審査表

提案団体名：にほんごしえん 提案事業名：外国人を支えるやさしいまち

★特記事項

■市の課題解決として、とても重要な取組であり、市民協働事業として期待できる提案である。現状では「こまえくぼ」主導型の実施であり、未だ独立した団体とは言い難い状況である。「こまえくぼ」の声掛けにより、多くのボランティアが立場を超えて身近に気軽に参加し、外国籍の方々の支援していこうという活動に集約できたということはとても意義のあることである。また、市民の方々の様々な能力をこの活動に取り込み発揮できていることも素晴らしいことである。是非とも「市」と「こまえくぼ」との役割分担を明確にし、市民の熱意を継続的に実施できる組織として団体自体が力を付けて、活動を継続していただきたい。

■今回の協働事業としては、市と一緒に課題解決に向けてのシステムや団体事務局が担う部分についてなども、共に考える事業として行っていただきたい。R5年度の協働事業のみで、構築できるシステムではないように思うので、団体の成長と共に、市と団体でこの事業を発展させられるよう努力して欲しい。

■日常課題を改善する活動に、大いに好感が持てる。市との協働事業という観点からも公共性があると思う。事業の発展性も具体的に想像できるため、期待が持てる。しかしながら、昨年の活動では、活動実施に主眼が置かれ、運営をこまえくぼに任せている状態が伺えた。市民活動として、活動を安定させるためにも、運営を自ら実行して欲しいと思う。これからも頑張って支援を進めていただけることを期待したい。

★指摘すること・注意点・課題等

■課題として、今後の団体の在り方があげられる。現在は「こまえくぼ」企画事業の実行部隊集団の段階である。今後独立した団体として、市と対等の立場で協働を担う団体として成長していただきたい。そのためどのような組織として独自性を持った団体となっていこうとしていくのか、NPO法人を目指しているとのことなので、明確な道筋（段階的な3か年計画等の具体化）を示していく必要がある。加えて、「こまえくぼ」がどのような形で今後支援するのか、市民に投げかけて団体を立ち上げた場合、どのように育てていくことにより団体として力をつけていくのか、といった支援機能の役割の明確化に向けた検討も必要である。更に、提案では、「日本語支援コーディネーター」という言葉があり、市の機能が中核にある図が示された。市の取り組みの方向性も明確にされていくことが必要である。市の課題である外国の方々への支援を、市はどのような態勢で行政として取り組むのか、学校等教育機関での日本語支援や既存の団体とどのような形で連携していくのか等、市の姿勢・今後の取り組みも問われているといえる。

■行政課題に対し、多くの市民が関心を持ち、市民が市民を支える仕組みとなっていくことは、まちづくりとしても理想的だと感じる。行政は、市民の志に甘えすぎず、あくまでも行政だけでは行えないソフトの面を市民が担ってくれていると理解し、対等に課題解決に向けて実施し、継続できるようにしていただきたい。また、団体は、まず安定した継続的運営ができるよう体制を整え、こまえくぼに頼らずに独立すること。それにより、行政が不安に思うことなく協働していく道になる。今後に多いに期待している。

■承認されたとしても、市とは現状単年度の協働事業となるので、それを踏まえた上で複数年度に渡って関係者が取り組み続けられるような活動計画を立案していただきたい。

■団体運営を自ら行ってほしいと考える。中期計画では、NPO法人化も検討されているとの記載があるため、事業の発展性も考慮した、具体的な方針設定が必要になると思う。支援をするという視点ではなく、活動を進めるという視点で、団体を発展させていただきたい。